

ダンス教育の現状と今後の課題

神田橋 純^{*1} 若杉 祥太^{*2} 林 徳治^{*3}

<概要>

平成 20 年に文部科学省の発表した新学習指導要領により 2011 年から小学校, 2012 年から中学校, 2013 年には高校において「現代的なリズムのダンス」と称して HIP HOP ダンスや LOCK ダンスが体育に導入された. 今までストリートダンスを経験したことがない体育教員も多く, まだまだダンス教育に不安が残る中, ダンスの授業が実施されている.

本論文では, 中学校体育のダンス教育に焦点をあて, 新たに誕生したダンス教育の取り組みや, 実際にどのような方法で授業を行っているのか等, ダンス教育の現状と今後の課題について述べる.

<キーワード>

新学習指導要領, ストリートダンス, HIP HOP, LOCK, 外部指導者, ダンス指導士資格

1. はじめに

平成 20 年に改訂された新しい学習指導要領は, 小学校では平成 23 年 4 月から, 中学校では平成 24 年 4 月から, 高等学校では平成 25 年 4 月から実施される. この新学習指導要領の保健体育科では, 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて多様な運動の基礎・基本を経験することが望ましい時期として, 中学 1・2 年生において「武道」と「ダンス」を含むすべての領域を男女必修で履修させることとする改訂が示された. 実施は, 平成 21 年度からであり, 平成 23 年度までを移行期間, 平成 24 年度から完全実施と定めている.

本論文では, 実施されて間もない中学校体育のダンス教育に焦点をあて, 実際に現場でダンス教育を行う体育科教員の声や, 文部科学省が発表しているデータやストリートダンス界での動きを調べ, ダンス教育の現状と今後の課題について述べる.

2. ストリートダンス教育の現状

新学習指導要領の実施により, 体育科で「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」の三つの中から一つ以上を学校が選択し生徒に指導する. ここで「現代的なリズムのダンス」が HIP HOP や LOCK といったストリートダンスにあたるが, 約 70%の学校が「現代的なリズムのダンス」を選択していることが明らかになった.^[2]それに伴い, ストリートダンス界では初のダンス指導士資格検定が登場するなど, ストリートダンスが世間に注目される事となった.

本来ストリートダンスは, アンダーグラウンドな文化であるが, 昨今では歌手や CM 等でストリートダンスが起用されるなど, ストリートダンスのメディアへの露出が増えてきている. しかし, 依然としてストリートダンスに対する「不良っぽい」というイメージは世間に色濃く残っているのが現状である. では何故, 非行を連想させるようなマイナスイメージのある「現代的なリズムのダンス」を

*1 Kandabashi,Jun :梅村学園 三重高等学校 e-mail= kandabashi0725@gmail.com

*2 Wakasugi,Shota :大阪健康福祉短期大学 e-mail= wakasugi@lsa-j.org

*3 Hayashi,Tokuji :立命館大学 e-mail= hayashi9@fc.ritsumeai.ac.jp

選択する学校が多いのだろうか。まず理由の一つとして「イマドキのダンスなら親しみやすい」という理由がある。これは、中学や高校の文化祭やダンス発表会で圧倒的にストリートダンスの発表が多いという事からも明らかである。しかし、それよりも切実な問題として「評価のしやすさ」が考えられる。ストリートダンスは音楽のビートに合わせてステップを踏んだりして踊る為、ビートに合って踊れているか等の評価ができ、「体気づき」や「創作ダンス」のような評価がしにくいダンスより分かりやすいという長所があり、選択されている。

3. 今後の課題

中学校では平成 24 年度の 4 月から新しい学習指導要領が実施されており、新たに「現代的なリズムのダンス」を選択し、体育教員が試行錯誤しながら指導している学校が多くある。ここでは、ダンス教育の課題を以下の二つの観点に整理する。

一つ目の課題は、「体育科教員のダンス指導力向上への取り組み不足」である。実施前から実施以後の現在まで、ストリートダンス指導に不安を抱える体育教員向けに、ストリートダンスの WS(=workshop)や講習会が地域のストリートダンス教室の協力のもと行われている。そこで教わった内容を持ち帰って生徒に教えるという教員もいるが、多くの教員が日々の仕事に追われ、それらに参加する時間を取れていないという現状がある。

二つ目の課題は、「ダンス教育の外部講師を招くシステム」である。現在、体育科の教員だけではダンス指導が不安な場合の方法として、地域のダンス指導者を外部指導者としてダンス授業に招き、体育科の教員と共に指導をしてもらうという指導推進事業がある。しかし、この制度も各学校に外部講師を呼ぶようなストリートダンス界へのパイプが確立されていない。実際、外部講師を招いて授業を行っている学校は少なく、三重県津市を

例に挙げると、20 校ある公立中学校の内、ダンスの外部講師を招いている学校は 2 校だけと少ない。

また、上述したように今回のダンス必修化に伴い、約 8 つのストリートダンス団体がダンスの資格を発表した。中には、教員のような指導者の為のダンス指導士資格も誕生したが、いずれも文部科学省や教育委員会との繋がりはない。仮にダンス指導士資格を取得したからといっても、教育現場に繋がるような制度が生まれていないのが現状である。

上述したこれら二つの課題を改善し、教員が自信を持って生徒たちにストリートダンス指導できるように、より多くの WS や講習会を行い、教育現場で活かせるような指導士資格を普及させるなどの新たな制度が、今後必要である。

4. おわりに

本研究により、「現代的なリズムのダンス」を選択し、不安を抱えながら指導している体育科教員がいることや、ダンス教育を補助する制度にまだまだ課題がある事がわかった。これらより、体育科においての「ダンス必修化」は時期尚早であり、指導する教員の不安を払拭できるような準備が整うまで選択制で良かったのではないかと考えられる。不安を抱えて指導している体育科教員の方たちの為にも、ダンス教育を推進する新しい制度が必要である。

参考・引用文献

- [1] 文部科学省, “新学習指導要領・生きる力”
http://www.mext.go.jp/a_menu/shoutou/new-cs/index.html//
- [2] 武道・ダンス必修化：全国公立中学校の種目選択状況
<http://mainichi.jp/feature/news/20120316ddm041100086000c.html//>